

10月22日（水）中国オークション協会（黄小堅会長）の招きを受け、青島海店金融センターで、「日本のオークション市場と中古車輸出エコシステム」について、講演してきました。

中国では、2019年に中古車輸出が解禁され、まだ6年しか経過していませんが、昨年(24年)通年の実績では43万台もの中古車が海外に輸出されるまでに急成長を遂げています。

現在、日本や韓国でも中古車輸出は絶好調で両国とも過去最高の記録を更新していますが、中国にも勢いがあり、早晩、侮れない存在になるのではという気配が感じられます。

ところで、このように中古車輸出に関しては勢いが感じられるのですが、青島空港に降り立ち、会場まで車で移動する間、車窓を眺めていると、これまで何回となく訪中して実感していた“活気”が今回はあまり感じられませんでした。

そして会場に入り、登壇して会場全体を見渡したところ、参加者が前回(2年前・約500人)と比べ半減していることに驚かされました。講演後、この事情について主催者に話を聞いたところ、『現在、中国経済は疲弊しきっており、自動車関連事業者も事業縮小、廃業、倒産が相次いでいる』とのことでした。ただ、半減したとは言え、参加者の熱量の高さは肌で感じました。現在中国経済は低迷しているとは言え、今年一年で2000万台以上の中古車が発生します。これだけの分母があれば、淘汰され生き残った事業者たちが、十分活性化するだろうと確信し、戻ってきました。

